

調査結果表

建物番号	屋根形状				建物の入り方			建物の構造			建物種別					前庭		土間		下屋		備考	
	切り妻	寄棟	陸屋根		妻入り	平入り		木造	土蔵		住居	店舗	倉庫	蔵	車庫		有		有		有		
①	1				1			1				1					1		△		1		
②	1				1			1				1							1		1		
③	1				1			1				1					1		△		1		
④	1				1			1				1							△		1		
⑤		1				1		1				1					1		△		1		
⑥						1		1				1							1		1		
⑦	1				1				1					1							1		
⑧	1				1			1				1					1		1		1		
⑨		1				1		1			1						1		△				
⑩	1				1			1				1							1		1		
⑪	1				1			1				1					1		△		1		
⑫	1				1				1					1									
⑬	1				1			1				1							△		1		
⑭	1					1			1					1			1						
⑮	1				1			1			1						1		△		1		
合計	12	2	0	棟	11	4	棟	12	3	棟	2	10	0	3	0	棟	8	棟	4	棟	12	棟	
占有率	80.00	13.33	0.00	%	73.33	26.67	%	80.00	20.00	%	13.33	66.67	0.00	20.00	0.00	%	53.33	%	26.67	%	80.00	%	

以上のことから次のようなことが考えられる。

- ① 屋根形状は切り妻が80%を占めている。
- ② 建物の入り方は妻入りが73.33%を占めている。年代は良くわからないが、年代が新しいほど平入りになる傾向があるようだ。又蔵に関しては今回の調査でのサンプル数が少ない為はっきりしたことはわからない。
- ③ 建物の構造は木造80%を占めている。母屋に絞ると100%である。土蔵の店蔵は見当たらなかった。
- ④ 目視で調査なのではっきりとしたデータではない。当然現在では住居の場合や、昔店舗だった場合もある。しかし大部分は店舗建築が軒を連ねていたと思われる。
- ⑤ 新屋の町屋の特徴として道路面に前庭があることがあげられる。占有率は53.33%と微妙だがサンプル番号③、⑧、⑮などはプロットタイプで、その他は車庫や増築等で消滅していったのではないだろうか。秋田市を含めた地域では町屋は敷地間口いっぱい到店を構える例が多いので特異の例として貴重である。
- ⑥ 今回調査はあくまで目視調査の為建物内部までわかるサンプルがすくなかった。実際は本宅のほとんどに土間は存在していたと推察される(参考資料や大町の金子邸等より)
- ⑦ 下屋の占有率は80%であった。本宅の屋根の高さは、秋田市中心部の金子邸や松倉ていよりもかなり低く抑えられていて下屋の存在が異様に特徴だて見える。下屋の下部は土間になっている事が多い。

※ 敷地の間口の大きさで建物の空間利用に差が感じられ概念図としてまとめた。しかしあくまで目視調査の為正確ではない。本来なら15棟のサンプルだけでなくこの地域全体を実測調査すべきで体系的に捕らえる必要がある。この地域内には屋敷、文庫蔵、座敷蔵など貴重な建物の存在する可能性もあり今後の行政も含めた調査、研究を期待する。